「不可解」の魅力

岸田國士

青空文庫

解らない、然し、何だか、かうふわつと来るものがある。少しぢれつたい、が、悪い気持ちぢやない。

芸術の鑑賞が、常にこれでは少々心細いが、僕はたしかに、今日まで、かういふものにぶつかつたことがある。

処が、さういふものでも、処々はつきり解る部分がないではない。そして、此の解る部分の魅力が、解らない部分の魅力をかなり左右することにも気がついてゐる。

僕は、此の解らない部分の魅力といふやつが、相当に好きなんだ。その代り、解る部分がつまらなければ、解らない部分は一向に魅力をもたない。まあ、さういふことになる。信用といふものは恐ろしいものですね。

実は築地小劇場で、「朝から夜中まで」を観たんです。

第一あの脚本であるが、銀行の出納口からホテルの一室までは、あの露骨さがいやだつた。処が、雪の野原を過ぎて出納係の家に来ると、あの「詩」がある。僕にも解る「詩」がある。佳い「詩」だと思つた。競馬場も貴賓とやらが来るまでは無難。踊り場の空気もいゝ。救世軍の会堂は、傑れた諷刺である。僕は、こやつ凡庸作家に非ずと思つた。解らない白(せりふ)がざらにある。翻訳では無理なエツキスプレツシヨンも多からう。工夫の余地もあらう。がその解らない処にも例の魅力がやつぱりある。軽蔑ができない。尤も趣味といふことになると、これは別だ。

次に、演出。やはり初めの二場は不満が多い。あとがだん／〴〵＼佳くなる。あれだけ「雰囲気」が出せれば申分はない。

舞台装置は、「思ひつき」としては新しいものでないと云へばそれまでゞあるが、また、あれが表現派だと云つてしまへばそれまでゞあるが、兎に角、現在の日本には珍らしい、そして、意義のある試みである。所謂「真似事」の域を脱してもゐるし、効果も十分である。これまた、趣味の問題になると別に云ひ分はある。が、あれから「新しい美」が感じられなければうそだ。侮つた意味でなく、民衆の好むべき美がある。子供にも解る美がある。そして、それは日本では新しいものだ。

僕は前に、「どん底」の演出を見て、築地小劇場の出発点はこゝだと云ひ張つた。今度「朝から夜中まで」を見て、築地小劇場の出発点はこれでもいゝと思つた。

日本の新劇が、少くとも演出の上で、此の小劇場から色々の暗示を受けることは好ましいことである。少し場数でも多いと、上演不可能ときめてかゝる劇場主などは、舞台監督などは、一度、「朝から夜中まで」を見るがいゝ。序だから云ふが、ピトエフといふ舞台監督は十五場や二十場の脚本は、平気で舞台にかける。やり方一つですよ。

問題の要点がわきへ外れたが、近頃、表現派の戯曲を書く人が日本にも出て来たやうである。酔払ひや狂気の囈言（うはごと）を真似ても、それや、かまひはしませんが、余程上手に真似ないと、つい正気で物を云つてしまつたりなどする。正気で物を言ふと、つい人にも解つて、それが面白く

なければ「不可解の魅力」も生じないわけで、一寸困るのです。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集19」岩波書店
　　1989（平成元）年12月8日発行
底本の親本：「時事新報」
　　1924（大正13）年12月11日
初出：「時事新報」
　　1924（大正13）年12月11日
入力：tatsuki
校正：Juki
2008年11月30日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

「不可解」の魅力

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/